

講演者:杉村泰

名古屋大学大学院国際言語文化研究科
日本語教育学講座 准教授

名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語教育学講座主催
第3回日本語教育学講座講演会

『現代日本語における蓋然性を表すモダリティ副詞研究』
(ひつじ書房)出版記念講演

副詞研究から見た 日本語モダリティ論の新展開

日時: 2010年4月23日(金) 16:30-18:00
場所: 名古屋大学全学教育棟・北棟406
参加自由, 参加費無料

この件に関するお問い合わせは, ktamaoka@lang.nagoya-u.ac.jp (玉岡賀津雄)まで.

杉村先生は、2009年10月に『現代日本語における蓋然性を表すモダリティ副詞研究』(ひつじ書房)出版されました。今回の講演は、出版を記念して、著書の内容についての講演です。

従来、日本語のモダリティ研究は「ダロウ」、「ニチガイナイ」、「カモシレナイ」などの文末のモダリティ形式に焦点を当てて研究が進められてきた。それに対し、本研究では今まであまり関心がもたれてこなかった副詞に焦点を当てることにより、日本語のモダリティ研究に新たな局面を切り開くものである。具体的には「カナラズ」、「キマッテ」、「キット」、「タブン」、「モシカスルト」、「サゾ」、「マサカ」、「ケッシテ」、「ゼンゼン」など広義の蓋然性(事態成立の可能性)を表す副詞群を対象に、コーパスを使って共起する文末のモダリティ形式の違いを明らかにし、それまで漠然と考えられていた命題とモダリティの峻別を明確にすることにより、これらの副詞の表す「蓋然性」の違いを明らかにした。さらにこの研究を通して、従来蓋然性の高低として捉えられていた「ニチガイナイ」と「カモシレナイ」に蓋然性の高さという「量」的な違いのみでなく、モダリティ的な「質」の違いがあることなど、文末のモダリティ形式の研究にも新たな発見がなされたことを報告する。